羣書類從

三百八十一

和書門
類 九五九五
號 二〇四
函 九
架 六七〇
冊

内閣文庫
和書
類 九五九五
號 六七〇
冊 二四
函 一九
架

内閣文庫

番號	和 9595
冊數	670 (475)
函號	214 39

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

群書類從卷第三百八十一

合戰部十三　　檢校保己一集

勢州四家記

一當昔伊勢國八郡を分て守護せり南五郡を國司領也小八郡を工藤の一家閑は一黨其外北方に諸侍守護し故小國司家と工藤家と戰ひ工藤家と閑家と戰ひ閑家と小方備侍と戰ひ朝暮兵乱止事なし

一伊勢北國司を村上の源氏北畠家なり元來是一

帝國圖書館藏

家なりと武士家也先祖小島權大納言源親房
卿後醍醐天皇より味方せられより勢列南方英和
列宇陀郡と号護し一志郡多羅城屋敷あり代々
多羅城の御所といへり人数伝地下人共に軍兵一万
余大将より南伊勢より北畠の一族三大將
とつゝ多氣郡田丸御所飯高郡大河内法所同郡
坂門御所也各侍地下人共軍兵千余大将也其外
一族一志郡波瀬の法所同郡岩内の御所同郡
藤方法所此外各五百人大將也一族勢多力合
五千人此人々皆國司被官也小島家に幕し彼
を別家也又和泉宇陀三人衆とつゝ澤秋山芳野
也皆を國司に与力後に被官となり彼家何
も大名なり并一志郡木造の法所を國司に与力
にて是も千人大將也法小路殿といへり
一工藤乃一家なる工藤右衛門尉藤原祐經の後流也
先祖工藤治部左衛門尉親光足利尊氏公へ仕へ子孫
繁昌して勢列安濃郡長野に居住し名字と長
野と号せり工藤の家督といつを右長野工藤乃
大將也菴藝郡雲林院と一味し各伝地下人共に小
軍兵千人大將と此衆は足利將軍家の侍なり

之外一族を安達藤太草生工藤家同郡細谷工藤家也
何も長野乃子力とし各五百騎大将也工藤与力合
五百人なり幕数ハ三引数なり
一関の一党とて六波羅大政大臣平清盛公に後流也
先祖小松内大臣重盛公天下を治給ふ次男小松
新三位中将資盛卿十三歳に時殿下案合依寄次
鈴鹿郡賀茂久我と云所へ六年之間流され其時一
子あり源氏乃世とあるて小源家也とあつると命を
助命盛国と号し関東へ死去ありて子関九
郎近左丈将監實忠始て賀谷と領新一関と号し其

苗裔関四郎足利尊氏つゝ仕へて繁昌す実に三家
督といふて鈴鹿郡亀山河曲郡神戸鈴鹿郡峯何
も関家也各侍也小人共軍兵千に大将なり同
五大将といふ鈴鹿郡國府関家鹿伏兎関家と
三家督とあり何も五百の大将也関勢與力五千人
なり此五家を各足利家の侍也賀家幕数を上野
の蝶也
一北方の諸家とて三重郡千種家侍也下人共五千騎
大将なり同郡宮重郡後藤家赤塩家河久良川
家楠家濱田家安古家菴蔵郡稲生家朝明郡

城主山口次郎四郎
茂福家羽津家本役家柿家萱生家負兵部丞
城主栗田玄蕃
木家縄生家モ外失念次見ル百騎ハ十騎或ハ
二百騎乃大将四拾八家ハ何モ一味同心ニ
諸事軍配ヲ各足利ノ軍家ヨリ付侍也
赤堀濱田羽津八元一家ニシテ田原又太郎忠廣
ノ末也羽津先祖ハ赤堀衛門太夫トイヘリ二代
目大膳助三代目上總守四代目肥前守五代目
因幡守六代右京助元亀三年壬申六月晦日ニ茂福
城主山口次郎四郎トハ縁者ナルヨヘ料理ヲ振舞
タキト謀テ呼請ヒソカニ空ス然ル羽津ニ残ル一
族城ヲ不渡取合アリトソ阿久良川家ハ平貞盛
ノ末館太郎貞治カ後胤也天正元年癸酉四月
廿八日濱田家ノ侍大将冊羽黒田伊達中嶋ノ
四大将戴百騎率シ阿倉河ノ城近ニテ来ル阿
久良川ノ城主館薩摩守下知シテ二男兵庫
三男弥三郎貞隆ニ百騎程相副城ノ南ヘ三四
町程出迎野間深田ノ細道ニテ取合アリ阿久良
川勢案内ハ知タリカシコノ深田爰ノツマリヘ押懸
々挑戦シカハ濱田勢タマラス五六町程引退此
時手負打死両陳ニ多クアリ館弥三郎貞隆勇者

ナリシカハ逃ルヲ追事法過タリ薩摩守貞清矢倉ノ上ヨリコレヲ見弥三郎危シウタスナモノヒツヽケヤ續ト下知スアンノコトク荒野道ノ邊ニテ敵伏勢ヲシテ鉄炮ヲ打弥三郎打死ス

一右ハ四家合戦度々也因幡家嫡國ニ武威ヲ振ヒ東ハ方ハ志摩一國二郡の諸侍多ク家ヲ下ヒ西ハ伊賀國四郡ハ仁木家ヲ下ヒ南ハ大和吉野郡の諸侍并紀伊國熊野山の法侍ヲ下ヒ北ハ伊賀國ハ名張郡伊賀郡の諸侍ヲ下ヒ皆也独ト名張郡伊賀郡の諸侍ヲ下ヒ皆澎湃ヲ海服ヲ下ヒ京関の一党ヲ武威ヲ振ヒ北方ハ

諸侍多ク下ヒ国中ヲ平ケ所ヲ下ヒ京

一撰ヲ發ス如何ト

一弘治年中近江国六角左京大夫源義堅伊勢ヲ打取ル小倉三河守ハ三子ハ長ヲ副ヒ子種ヲ政子ヲ従服後の後宮野郡蓋生ヲ作ル

うへ弘治神戸ヲ攻弘治三年神戸下総守後巻ヲ出神戸ヲ長鬼神国城主佐々中務少輔父子謀叛シテ神戸の城ヲ攻小倉ヲ引退ケリ亦佐々長右市ヲ助佐藤ヲ紀鬼神国の城ヲ取神戸家ヲ引ケ家一味同心シテ神

戸の城と攻め奪ひ返し佐渡の首と刎ね兒大託
ゐ

一國司北畠權中納言源具教永禄年初より秋山家
謀反よりして和州神宗墨へ陣を寄せ陣せり源長世家より具教ゟ次男長野
の殿子となり長世治部卿と号次男を工藤一郎
惣く國司北畠殿となれり

一関一黨の大將冥安寺盛信神戸藏人太夫盛三
人ともに近江國蒲生下野守定秀に聟なり其比
蒲生家を六角家に一味なるを依て三人の聟を諫て永

禄年中より六角家の一味となれり亀山神戸の
冥一味乃上を峯筑前守國茂佐渡守康伏危危
京亮と初め六角家の一味となり

一此時始て工藤小島家より関を六角家より
工藤小島家の法師と永合く船を出て迫り三重郡
塩浜へよせたりとて國衆多くや和ひ
陸より人数を渡し待ち舟より攻て大合戦
以大勝切る是大合戦なりとれよりて冥家盛と振
小方法侍大形関氏人の多く付属せり

一永録十年春英法國織田上野介平信長伊勢

國と打取へきとて瀧川左近太夫將監一益と大將
として勢州小方へ發向ありし瀧川家尾張堺
長嶋桑名迄美濃堺多の渡迄へ打おゝ小方誘侍或ハ
攻或ハ和し或威と振ひ負ア桑名郡の法伯
上木求役物福以下悉く織田家より海陸なる
なり

一永祿十年八月信長神戸桑名表へ發向ありし
北方諸侍宇野ア蔓生以下隨く其後信長摘の
城を攻落降参し外鬼ヶ嶽内出とある神戸北
長山治澤正忠ゝ城ゝる器と圍ゝと紀西方三人成

二ツのよし北御所四参を信長ハ瀧川左近より小方
諸侍とお副將列の方へとして波阜へ帰陣
ありと

一永録十一年二月信長又勝別發向ありし小方法
侍何と家おゝ信長又高畠城を圍
已時神戸へ使を代遣し神戸義人太夫と和
睦を神戸ゝ女子を人ありて男子四信
長の三男三七歳十一歳の時親子よつゝ家督四
歳先出ゝとゝとして其外器在太郎左衛門之
宅權右衛門坂口孫殿助山下三右衛門以下侍ありし

はやらず但馬口海道より信長へ降参
先年人質へ出のこしたる子息
討死せり神戸家信長へ一味よりて峯國苅
麻伏兎稲生家以下と信長よりうたれ但馬
山間一人い六角家と合戦し留守中
一信長公をたのみ小伊勢の法伝流と業門出と
立藤家とせちうとて安法法寺へ
九郎左衛門城細野と攻られ細野
養子を取り一所分ア先家亮川小四郎
長世よりひき信長公の幕下につき此人くいより

しい長世親子名跡代々長野次郎と
物一皆味方よりいるへらと也伝く信長公の舎弟
織田上野介と長世親名跡と定別苅上世子
すをうる則神戸若人を奪ひ婚姻を伊勢と
伝之長世涙ア逆出きれ又國司北畠南伊勢
へ引退る此ときよ雲林院出家出家兼尊世家亦細
野中尾乙部已下立為の一族なり信長公幕
下よりく又関安藝守も同幕下つくと也
一小伊勢八郡悉信長公に分属も立為家い上野殿
なりとさるか関家い三七度なりとさ元北方法士

八瀧川ヲカトリ　さめ川ヲ又津の城ヨリ濃田掃部殺
と南方ヘ押ヨセ　信長公ハ先岐阜ヘ海
陸ヨリ

一同年秋九月信長公ハ落御供ハ英法尾張の侍
伊勢瀧川関一黨ホカナリ此時始テ天下一統ス
信長公小牧原ヘ陣也

一其比伊勢北國司具教ハ多藝ヨリ大川内の藤ヨリ
つゝ大河内ヘ居ス大膳ヨリ稱スル具教卿ハ陽成ヲ
嫡子信意ヨリ中ホトリ大猷御所ヨリ出ナリ

一永禄十二年五月木造家ハ國司北畠也父子國司ヨリ

ヨリ信長公ハ瀧川ヲ北ハ木造家ヨリ菩提所源淨院
ヲ同長柘植三郎左衛門ヲ南方ヘ長木造陣ヲ源淨院ヲ木造家の廉子ヲ
南方ヘ長木造陣ヲ源淨院ヲ木造家の廉子ヲ
絶ヲと云ハ是ナリ

柘植三郎左衛門信長家老瀧川伊豫ト云侍ノ
所ヘ立入内通ノ故三郎左衛門カ子ヲ・伊勢ノ
クモツ河ノ端ニテ國司ヨリクシサシニナサル
ル是ハ人質ヲスステ三郎左衛門立身ノ故ナリ

一同年秋八月信長公勢州ヘ發向ヨリ道節乃城
小森上野城ハ藤方御所の守護ナリ是北城ヲ

天花寺より護り船江の城を本田左京亮の守
護なりと八田の城を大多和兵部少輔は守護り
阿坂の城は大宮は守護り各手加勢ありの如信
長公乃先陣滝川勢関勢と以て先小城主野を
押へ木造城へ打入出木造勢源浄院柘植三郎左衛
門尉勢と案内者として西方山際と成て阿坂
の城とを比時は先陣は柴籠前守秀吉也の坂
は城主大宮入道九兵衛同大学助せき戦大変
与は達なり秀吉は左の脇と成て攻られも
其後大宮降参城とあまりなる則滝川勢

勢と入替る其後信長公大河内の城を囲多の池田
紀伊守伝聖の勢廣坂口へ出て お戦ひ城衆日毎大
脇充家来主水祐鑓と合せ言名を大河内を七尾
七谷あり信長公は方々をひしひし囲とへとも落
城ならず亦麓出谷ひしく攻る方は信とかく死と也
一同九月物船江尻本田方多彼宮は数百人民家と
金加の陳不丹生与へ夜討前三拾六町取囲日よ
り伝長陣所へ夜討をへしと解あまたとも船篠
より外り夜討をるをかとれり
一同九月下旬池田紀伊守信輝丹羽三郎左衛門長秀

稲葉伊予ノ道一徽掘ヲ誘惑奄ニ来討ヲ日垂大
膳亮安保大藏少輔郎来ル水祐長堂尼京進出馬
ス名ハリ信長ニ対シ侍朋日源八郎以下伯大將十三人
討死ト也
一大川内籠城五十日計ノ時信長ニ織田掃部助ト使
者ヲ和睦ノ儀ハリ城ヲ明ケ渡ス相木隼人佐ト使
シテ信長ニノ次男茶筅十二歳ナルヲ人質ニ出ス嫡
子伝意ニ郎子トシテ和睦ヲ取別ル其数郷の
聟ヲ定ラレ織田掃部助ヲ取ツ其外生駒半
左衛門滝川彦助天野佐左衛門池尾平左衛門津

田源三郎土方彦三郎ハ侍ヲ仕ル者ヲ茶筅丸
先船江の某師寺ニ住居ヲ諸事ヲ成敗ス
滝川ヲ遣ハリ毎信長ニ千月下旬ニ伊勢系宮ア
リ安濃津ヘ海陸ヲ織田上野介ハ時ヲ津の
城ヲ攻ル事ハリ
伊勢國司ハ日本三國司ノ内ニテ二番ノ家高キ國
司也四国伊豫奥州三国司ト也サテ伊勢ノ國司
ヲ御前方近江佐々木殿息女也此腹ニ男子一人
アリ殊之外フトリタル人ニテ身ノハタラキモナラ
サルニツキフトリノ御所ト名ツク然モウツケニテマ

シマスサレトモヲ茶筌ヲフトリ御所ノ妹聟ニシテ
国司ヲユツリタマヘハ三瀬ノ御所ヲハ大御所フト
リノ御所ヲハ中ノ御所ヲチヤセンヲ本御所ト申
テ是本ノ国司也御本所ヲハ多藝ニヲカスシテ
伊勢ノ笄内ト云所ニ置タマフ
一ヶ後國司ト茶筌丸ト船江の城ヲ抗儀見参ヲ
又源浄院ヲ還俗シテ滝川三郎左衛門ト俗名ヲ拓
植ヲ都ヲ来ツトモ人ト家老トシテ信長公ヲ
茶筌丸ヲ大將ヲサシメられぬ
一同年十月信長公織田掃部助ヲ使意ヲ南方
北陸割ヲ以稲生動解由左衛門案内ヲ為
屬シ曽原の天満寺用ひヲシテ稲生ヲ射落
落城ヲ家来主水祐ヲ同城ヘヲ信長
小島ヲ長勢当原の城ヲヲ事三年元亀
二年長國司船江ヲ城ヲ馬ヲ遣
曽原落城シテ家来ヲ味方ヲサシ御也
一元亀二年正月信長公神戸長人左衛門尉ヲ
居ヲ佐ヲ迷日野蒲生左衛門尉賢秀ヲ
則三七殿ヲつヲめヲ三ヲれ神戸三七信孝ヲ
ヲり又信孝山路浄正ヲ腹ヲさヲ浄正ヲ

しゝゐ屋の城と云也後同無比舍兄小爲丞ゟ丹浦
よりさゝ[illegible]後く神戸侍百二拾人寄人を殘
伯田百八拾人裏と云ふて信孝へ法人法事一
味方ゟ丹大將八幡河原ゟ川西表ゟ
大田丹後守同監物高田雅楽助同源右衛門村
田治部丞恐山路玄番元吉瀬尤迫物監佐々木隼人
祐矢田掃部助竹屋平兵衛清延田助右衛門馬淵五
郎右衛門也

一同年夏船江の城より茶釜尤狐言あり
丹後大川内北城ゟ梅ゟ北島三郎信雄中等

方利

一元亀四年（天正元）春長山安藝守盛信ハ伝長公の動爲と
蒙ゟ日野蒲生家ゟ被ゟ被ゟ
一長公伊勢長島ゟ一揆起ゟ滝川彦右衛門ハ伝
長公ゟ度ゟ度ゟ天正二年北條氏信雄信
孝ゟ度ゟ度ゟ長亀一揆退治ゟ所財業八郎
郎討死ゟ其弘舍人ゟ八郎幼ゟ伝孝
業ゟ嫌ゟ蒲生ゟ日野ゟ被ゟ被ゟ法ゟ惜別の西
大物信雄信孝一益信長公法信と
元亀三壬申年極月廿三日遠州味方ヶ原ニテ信

長家両人ニ信長公勝タヽヒ同國刑部ニテ御越
年有ケレハ正月四日ニ伊勢三瀬大御所ヨリ一ヤノヲ
石見ト申侍ヲ使者ニテ天下ニ御旗立ラルヽニ付テ
ハ御船ヲ進上申ヘシト誓紙ニテ仰ラルヽ也
一天正三年ニ信長ヲ謀意ヲ以テ信雄ト田地
の城へうつされ北畠左中将ヲ任ス家督ヲ
以信雄の舅又小畠左中将伝意ハ濃州也大名所
中納言具教ヲ三瀬ヲ殺ヲうまくうりもぬ
是ハ何ヲもとありしんと北大枝へ引入ぬ
なり田地中物が殺ハ岩出殺ヲ殺ヲ國司の

長島尾石見守ハ信雄へつきしる此鳥尾ヲ去時の
智恵ありしとなり
一天正四年ニ長濱會群の住人赤松新しく出大名と
信雄野山とを先ヲ[illegible]伝雄朝ヲ加勢長濱
ヲ同郡長濱の城と[illegible]る加藤長鴻ヲ[illegible]
三郎ヲ攻ヲ所ヲ熊野侍ヲ蜂起し三郎の陣
と取巻し長島代攻遂ヲ長鴻と攻落ヲ赤松
[illegible]ヲ熊野ヲ[illegible]ヲ長日後大山内住ヲ
赤松ヲ[illegible]也
一同四年ニ冬信長ヲ使ヲとして國司三瀬大御所

中納言具教卿と密密にしてや此度の國司北
侍藤方刑部少輔長政（一説カルノ元東ト有）東進 并 滝川三郎左衛門等
十一月廿五日三瀬より切て出て具教卿をとり奉
具教卿を手負て伊勢兼日より二位やかたへ
具教卿の大力服指の者と申さはめ候のひとく
垂らるとのや國司の次男長野左京亮 不同三男武部
お幡（サカナイ）坂内御所（云家国司ノ事ナリ）三人を信雄卿に国司の城を
料理振舞んと事〳〵とよせひそうに云方河内守を
水久内を外侍にて下知〳〵信雄卿とりたて
又大河内御所に打入病気なりと拵て三郎左衛

小川久左衛門田尾宿所へ遣例乃尾弟と云そうとゆ
ゑそうもぬ坂内（ハシハカ兵庫ヲヤナリ）道弟幡と同国尾宿所へ
うちぬ小島尾中将信意卿滝川彦三郎へ
白尾の岩外諸侍或は教害或は追出のもの
北島一族て田尾中将のこゆるさに長方入尾慶田
そ〳〵子息刑部少輔伝聞て三瀬大湊所とらち
めらるゝと悔〳〵敷事と申て死事
誠に武士は義なりと人〳〵感あり也
一大御所具教卿の舎弟奈良東門院右大臣の子傳
関係及と金〳〵川役小山戸河坂若狭大内山江

大抵ハ一揆ヲ先ニ立テ院ニ則還俗シテ
北畠具親ヲ号ス彼伊勢山中ハ本ヨリ一揆所
ナレハ至テ多ク有國司家ノ譜代ハ侍ヲモ
百姓ヲ以テ一揆蜂起ヲ依ク小山戸ヘハ
滝川三郎兵衛拓植ヲ長世尤京進ヲ池
田ハ或ハ降ヲ或ハ退治セリ川役ハ蒲生
大膳亮賢秀ノ敵關伽揮九曲嶺富永森ノ
城ヲ攻ヘ猶給ヒ〻ト日置瀬ヲ退治ヲ攻因ヲ
攻ヲ内藤勝助ハ向ハ三瀬ヲ攻清十郎池田ハ悉
ク退治ヲ也

一同年十二月織田掃部助謀反ヲ事ヲ信雄ハ
長島ヲ攻ヲ田尾の城ヲ攻ヲ
一説ニ織田掃部ヲ信雄之老ニ申付ラレシヲ拓植
三郎左衛門瀧川兵部両人ニテ信長ヘサヽヘ天正四年
四月廿五日田丸ニテヒヨキ大膳ト云伊勢先方ノ士ニ申付
キラスル此科ハ國司方ノ親類ヲ掃部養子タルト云
科ヤトソ

一天正五年日乗大膳ヲ兎川役合戦ヲ日乗負
次ヲ丈一両日ヲ關伽揮九曲西城ヲ攻ヲ後
船江本田勢三瀬勢ヲ加勢シテ嶺の城ヲ攻ヲ

嶺う[illegible]乙栗柄二人生捕又鳥屋尾石近右衛門
城富永之攻捕ものり家来之水徒を城代為
山中より深追ひ[illegible]と上洛て新宿うちぬ遂ふ
小島具親敗軍して森の城と落安藝毛利家
従野之伝後ハ銭ハ伝居きり二度目天満亮を
七日市より城と攻毛より極りなる老大剛の武士也
一天正六年信雄朝臣より志別九鬼大隅守兵
を野原船ゆて大坂へ迫り[illegible]雑賀すて
紀軍し信長公の仕感より就ます九鬼を鳥羽の
聟ゆ[illegible]元来熊野侍ものり

一天正七年九月伊賀國名張郡ハ伊人ハ山
甲斐守信雄朝臣の味方とものり伊賀へ御出馬
ものの角ーとなりし故より信雄朝臣伊賀へ数回あり
名張口湯屋口此ハ[illegible]ハ[illegible]
敵雑所ものり伝ものて[illegible]へ[illegible]
地尤京を下山甲斐守と生捕名張口と[illegible]
敵伝ものと[illegible]
合て敵ハ[illegible]
日置大膳亮柘植三郎左衛門[illegible]
柘植ハ酒気[illegible]

かゝり

一天正八年田丸城より大事ありとて後より信雄
勢伯耆守郡細頸と云所より陣と接へ松ヶ鶴と
名付候

一其後雲林院出羽守子息弥助甫上野殿の事に
付ては信長公の侍矢戸吾七郎を
聟に取れ申候出羽守を安土へ召伝長より賀
と申結ると也

一天正九年に伊賀国の住人福地信長公に暮
下り系伊賀乃忍への御内と結ると云

諸大將法方より攻入先伊勢口を信雄朝臣大和口
を筒井順慶伊賀葉茶壺(シカラキ)谷蒲生先陳と義也
柘植口を滝川一益池田勝三郎時伊賀侍悉く降服
申候と則信雄朝臣へ付られ也

一天正十年北畠滝川一益関東の官領に任られる
神戸信孝は四国の支頭に成る北畠安濃守は亀山
に成信孝へ付られる神戸義人左文と本住
して澤の城にうつり神戸城の留守居のため也
信孝一万五千の勢と伴に泉州堺の浦に陣を
しられ信長信忠父子東路を明智日向守野に

まて腰をかけ[illegible]信孝大阪城へ[illegible]
へ明智ら聟織田信忠と[illegible]也
一信雄親子ハ松ヶ鴻より上洛ありて先堺へ[illegible]
ろ[illegible]ろ日比蒲生飛彈守氏ゝ明智に随心せて
[illegible]江州日野より[illegible]城志賀ゟ所へ信雄親
加勢[illegible]ろ又[illegible]須伊賀ゟ一揆蜂起のよし
仁木入道友梅ゟ[illegible]郷ゟ[illegible]信雄の
[illegible]陣ゟ陀三人衆澤源六郎秋山天野佐左衛門
と軍奉行[illegible]指向る[illegible]時澤秋山表田淨[illegible]
城一の宮と攻落[illegible]

一明智日向守光秀ハ信孝とうせんたゝの攻行るゝと
[illegible]紫[illegible]前守秀吉[illegible]池田紀伊ゟ信雄丹羽五郎左衛門
長秀堺久左衛高山右近中川瀬兵衛ゟ信孝の魁と
[illegible]逐[illegible]明智退治せゝ後
信雄信孝兄弟天下[illegible]出来ゝ信雄親子
ゝ信長公の次男信孝ハ三男也[illegible]信長の仇と
[illegible]ハ信孝[illegible]天下の[illegible]目とつく
[illegible]ゝ[illegible]信雄ハ濃州岐阜にゝ
松ヶ鴻の城ゝ津川玄蕃頭ゝ[illegible]
押へゝ信孝ハ尾州清洲の城ゝ移ゝ神[illegible]の

城ハ小鴻会部少輔より彼方へ押へとゝ[illegible]也
信孝信長三男號三七天正十一年於野間内海卒年
二十六
一同年冬北島具親伯父より南伊勢にさゝり
譜代の侍共と集先一揆とおこし稲生雅楽助
安保大蔵少輔岩嶺口大炊助小一味して丸ケの篠山
より篭り十二月晦日より[illegible]へ火をとる所に伯父
天正十一年正月朔日南方発向して篠山と
也同二日具親石藤山城為伊賀へ行彼一揆と
あらそ[illegible]川三郎衛より伊勢北国と仕[illegible]め
則發向して伊勢一国の一揆と悉く退治をと
同蒲生飛騨守氏郷加勢〳〵五山の城を攻
ら[illegible]事あり
一天正十一年春長信雄信孝兄弟合戦の事
羽柴筑前守秀吉柴田修理亮勝家長方に分
れ信孝勝家敗軍せり伊勢神戸侍共
謀反をすゝめ事毎〳〵其後神戸侍信雄朋友
分屋も神戸の味方と林与五郎同五郎
林与五郎神戸へ参向小鴻会部少輔と戦
神戸友盛信雄親戚の味方と分り林与五郎と

聟とし神戸与五郎と号し伝承れ侍る与五郎
内室となりぬ同國苅治郡四郎を信雄朝臣の幕
下たらしめなり
一同年六月神戸与五郎亀山表へ發向あり突
安藝守盛信町と自焼して打て出る与五郎
う百騎ばかりに勢と追まとり城に引入ぬ光秀有
乃名誉なり其後蔵生家に見て引ける
関を信雄の味方とりぬ同康伏危尤京亮も
味方にまいる也
一関藝守父子上落の砦に長岩周堂四拾三人籠

反し滝川一益よせさぬ滝川伊与守一益亀山の
城へ引取崇此城を攻捕滝川俄家と入おさめ
を外國苅康伏危と為こく神戸と攻与五郎
國苅康伏危ホ又信雄の味方て桑名此時織田
上野殿を攻らるる又秀吉より亀山の味を賞長つ
る滝り蔵生氏郷の組中とせらるる又康伏危稲生
ホを織田上野殿より滝る神戸与五郎滝川会ハ信雄
付ると信雄朝臣崇此城を佐久間甚五郎に滝り
長浦の城と天堂周防守薦野の味と云方河内
小浦なり

一天正十二年春信雄秀吉不和よりぬ諸大名皆秀吉
方也徳川三河守家ハ信雄親戚の一味ゆ警列
松ヶ島城主津川勢州津川弥左衛門
信右衛門中川仁右衛門佐々木右衛門富田平右衛門
木大膳也是ハ皆不和造佐右衛門佐具康押寄是と
也津川弥左衛門百人余野伏引退く之後滝
川下総守伊賀より来り松ヶ島信雄籠城ゆ
日置大膳亮加勢して天守を洗川当護一門矢
倉を日置守護ゆ
一田丸中務少輔丸鬼大隅守澤源六郎秋山右近太夫

芳野宮内少輔丸也秀吉の味方なり滝田上野原
也秀吉一味なり信雄親戚の味方伊勢之南之
木造左衛門佐小山戸尻船江中田尻也神戸与五郎
佐久間甚五郎国府治部四郎天徳周防守北方河
内守木八籠城ゆ
一亀後滝家四郎天野周防守北方河内守木八籠城
也
一甚後峯の城と蒲生藤蟬守関安兵衛入道蒲生父子
也外近江侍攻城主佐久間甚五郎也
尾別へ為ゆ依て神戸与五郎也城と

濃州うゝ井城より稲葉能登守国府盛政城を
あをの氏ゟ同四月下旬松ケ嶋とハ慶法と云へゝ
比丘尼拵し由へ城主滝川日置安人ゟ尾州へ
引ゝ入ると也武尾ハ国司の侍畠合左衛門頼ゝ嫁ゝて
去人の妻ゟ有ゝしゝ尾十六歳のときゟ夫ゟ去られ
しゆへ二度ゟ夫ゟ由へゝ尼となす事ゝ有ゝきゝ
城ゟ出ゝ尾ゟ不被の權内ゝ城行鼻
を水を呑ゝ並神戸与五郎ゝ籠れゝ城ゝ攻
殺ゝると也

一秀吉公和州郡山の城と羽柴美濃守小牧ゝ伊賀上
野の城を筒井順慶ゟ志摩鳥羽城九鬼大隅守
ゟ小伊勢神戸城を生駒雅楽頭ゟ給ゝ末進小山
戸小倉上野ハ上野民へ加恩をゝ給ゝ南伊勢松ケ
島の城ハ蒲生忠郎守氏ゟ給ゝ田尾中務少輔
賀長門守并宇陀三人衆ハ氏郷ゝ組中也指出ゝ
末進家并小山戸小城とゝ給ゝ信雄卿
の味方ゝ有ゝ故ゟ蒲生飛騨守上野民
ゟ給ゝ末進とせる事ゝ有ゝ也
ゟ伊ゟ氏ゟ蒲生氏ゟ押へゝ蒲生左衛門督

同孫五郎兵衛同忠右衛門ホカ
一小山戸住人岡村修理進長野左京ヲホ氏ロ乃味方
ヲシテ出馬ヲヘ〳〵ヒシ同八月十四日氏郷
小山戸ヘ地向ヒ先切懸市ヒ敵ヨ押寄打攻破ル
市ヒ悪ヒ出ヒ次ヒ同城山治部左衛門ノ
搦手ヒ佐田城ヘ押寄既ニ攻ヒ落ヒ
北畠具親ロ伊賀ヨリ来リ氏戦ヲ扱ヒ
城ヲ受ケ取氏ロ松ヶ島ヘ帰リヌ
一氏郷方ヒヨリ軍兵ヲ遣ハシ若木造ヲ攻ハシラセ
ヲ〳〵ヒと兼テ心ヲ付ル処ニ九月十五夜小川表一

所田ヨリ出ル其大将ハ田中仁左衛門柳作左衛門ノ十助中
川彦左ホカリ氏ロ元祖向ヒ外地長吉ホ付死セ
此時ヲテ和睦ノ談炮松ヶ島ヘ寄ヒ〳〵氏ロ
一談ニヲヒヨリ地向ヒ木造勢菅瀬ヨリ取ル
不代氏郷実数ヲ以お戦ヒ氏ロの伯父地源左衛門
岩田市左衛門同平左衛門同半左衛門菅沼助兵衛
野田亀ヒ進ホ林源兵衛ホ真先ヒヲ名ヲ各ヒ名ヲ
セリ此時氏ロの甲ヨリ鉄炮三ツ打ヒ
ヲ利ヒ是ヒも氏郷北勢ヒ攻ヒ
木造勢ヒヨリ敗軍ヒ見ヒ手本ヒ夜合戦ヒ

偽り同十月下旬木造志摩守長利へ引のき
ぬ織木造小山戸織田上野殿へ付属する也
小田原之役信雄伊勢尾張兵一万五千卒ヲ到相州
北条氏落城之後秀吉流内大臣信雄于出羽秋田
其後帰京
一其後秀吉公と信雄家一業名共田川ホリ
和睦角り〳〵ゆへ神戸分又信雄と渡り則瀧川
下総守代神戸と云ふ又蔭生寛禅寺を
天正拾六年秋松ヶ島より仮ヲ新四五百人へ城へ
移され松坂と号後業名の儘ハ吉渡文禄年中ハ
初て立一柳右近丈守護ヲ云也此後ハ国治ノ少間
乱ヲ伊勢一検の事ありり

右物別四家記録有不審伝無記本不能校合